

學校小學生徒心得

K1101  
17

B

I

238-5



明治十一年七月改刻

學校

讀本

小學生徒心得

東京府

小學生徒心得

第一條

學文を爲すの  
の精藝を長  
道を立



を開き身を脩  
す一て自營の

の第一身の行を正しく常々學業を  
勉勵し將來の幸福を受る様心懸くる  
こと肝要あり



第二條

常々舉止言語を慎み一意々教師の指揮に従ひて教を受くべし苟且々も粗暴の振舞をなし他生の嘲笑をうけざる様心かくべし



第三條

教師ハ我ニ學術を授くる恩人なり常々敬禮の意を失ふべからず

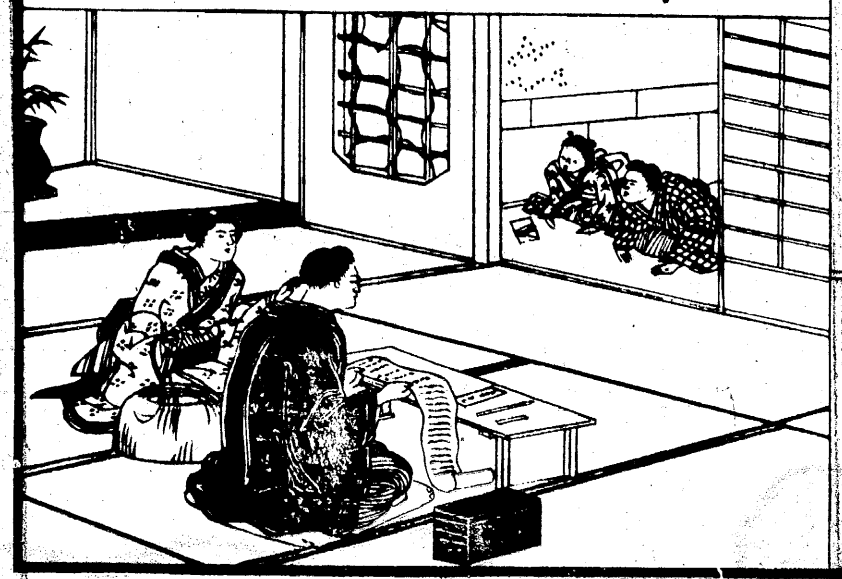
第四條

朝ハかならぎ早く起き先衣服を著替へ顔と手を洗ひ口を嗽き髪を櫛り而して後尊長に一禮をふして其安否を伺ふべし

第五條

毎朝食事終れば學校より出る用意を爲し教場にて用ゐるべき書物石盤等を取り落さざる様致すべし

第六條



學校より登るべき刻限の課業の始る刻限の十分前たるべし

第七條

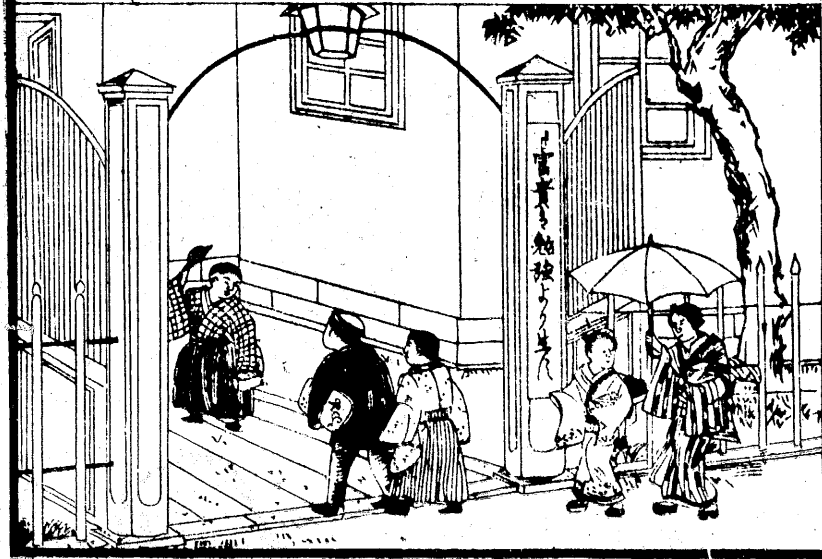
學校に至れば先扣所に入り行厨を我坐席より置き教師の差圖を待ちて教場に入るべし決して高聲遊戯など爲すべからず

第八條

教場に入リて席に  
就くときハ教師  
敬禮を行ふべし

### 第九條

若事故ありて出校  
の刻限ハ後れたる  
ときは其由を教師  
ハ告げて差圖を受



くべし

### 第十條

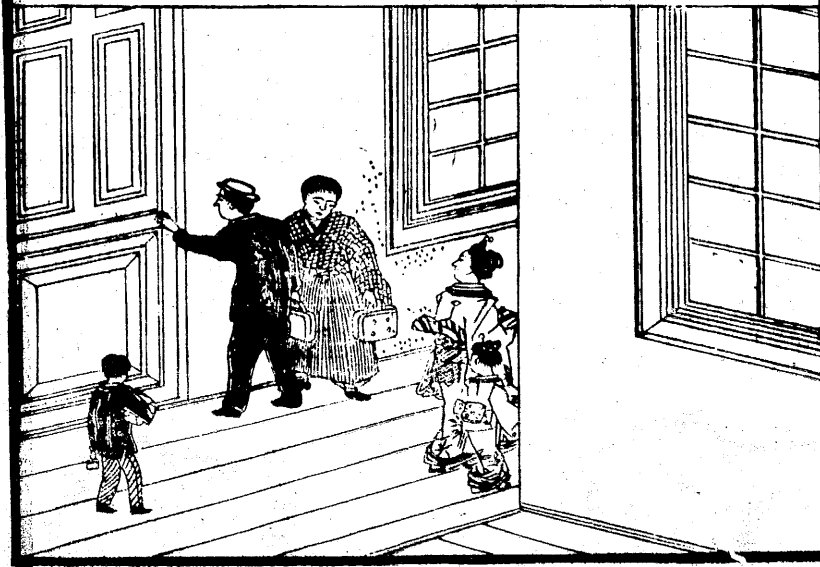
教を受るときは勿論總て我意我慢を  
出さべからず教場にて己の意を述べ  
と欲せば右の手を揚げて其意を知ら  
しめ教師の許可を受けて後れだやか  
よ言すべし

### 第十一條

教師は告げずして  
みだりな教場の出  
入をなすべからず

### 第十二條

障子襖の開閉ハ静  
になし書物器械ハ  
丁寧な取扱ひ破損  
せざる様又行廚ハ



静に食し人と湯茶を争ひ或ハ衣服な  
ど濡さぬ様注意すべし

### 第十三條

教場ニ於書籍石盤等を出し納れたる  
ときハ響の聞えざる様に注意し又壁  
塀其他の物ハ濫書し又ハ外見雑談を  
なすべからず

### 第十四條

學校に往返する途  
中、於遊び戯るべ  
からず若車馬等、  
行逢ふとき、其通  
り過るを待ち決し  
て其前を馳過ぐべ  
からず

### 第十五條



自宅へ歸りたるときと他出するとき  
其由を尊長に告げ敬禮をなすべし  
但學校より歸りたるとき、必日課  
優劣表を尊長に示さべし

### 第十六條

雨天のとき、別して傘はきものを取  
揃へ置き退校のとき、錯亂なき様注意  
すべし

第十七條

學文をなすとも身體健康ならざれば其詮なかるべし常ニ左の條件を守りて自ら病を招くべからず

第一 課業畢る毎に體操場へ出て

運動をなすべし

第二 運動をなすとも奔走するこ

と度に過ぐべからず

第三 熱き湯茶

を強く飲

むべから

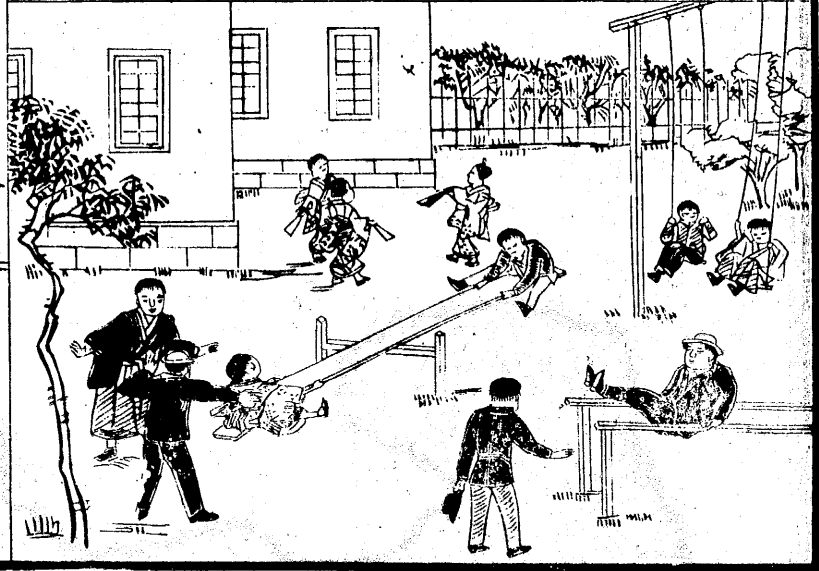
ず

第四 字を寫し

算を學ぶ

に體を曲

け胸を屈





せべからず

第五 雨天は傘なくして歩行せ

べ  
からず

第六 冠物なくして炎天を冒し跣

足をして雪中を行くべから  
ず

### 第十八條

急は覺えんとするときは却て忘れ易

きものなれば一事を覺えて後一事に  
移る様に心掛くべし

### 第十九條

覺え惡とて決して倦み怠るべからず  
怠らず勉強するときは自然に覺ゆる  
ものなり

但其日は教を受しことい退校の後  
尊長の前まで復讀を爲すべし

第二十條

朋友と睦しく交り

決して不敬不遜の

振舞あるべからず

又人の誅謗すべからず

ら

第二十一條

人より争を仕懸と



も決して之と争ふべからず其由を教師に告て指示を受くべし

第二十二條

尊敬すべき人又の知己の人と出逢と

きは敬禮をなすべし

小學生徒心得終

明治十一年十月出版

本町三丁目九番地

翻刻出版人 中外堂 柳河梅治郎